

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0490200284		
法人名	社会福祉法人つつじ会		
事業所名	グループホームふれあい ユニット名:一路ユニット		
所在地	宮城県石巻市蛇田字小斎1番地1		
自己評価作成日	令和 3 年 7 月 27 日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 3 年 9 月 24 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様が安心して生活して頂けるような関わりを心掛け、入居者様一人ひとりの思いに寄り添い、充実した生活を送って頂けるような支援を目指したいと考えています。また、新型コロナウイルスにより買い物や、地域住民とのふれあいは難しくなっておりますが、ホーム内でも楽しめる行事や、密を避けながらドライブ、散歩等をしたりと感染症対策に努めながら楽しんで頂けるよう企画しています。尚、出来るだけ在宅から継続している馴染の医師に依頼し健康面のフォローを行って頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して4年目を迎える「グループホームふれあい」は、田や畑に囲まれ住宅が点在する静かな環境にある。開設時からホームの行事には地域に呼びかけ、広い敷地で地域住民を交えて芋煮会や夏祭りなどを行っていたが、コロナ禍により自粛を余儀なくされている。ホームでは、本人の生活歴や現状を踏まえながら、家族と共に入居者を支える支援に取り組んでいる。目標達成計画に掲げた「身体拘束をしないケアの勉強会を単独のものにする」は時間枠を多くとり、職員間で事例に基づいたりチェック表を活用し、身体拘束をしないケアの振り返りとなりケアの改善に繋がった。入居者の思いを引きだす支援に日々努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホームふれあい )「ユニット名 一路」

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念として「笑顔で寄り添い地域とともに」を掲げており、入居者様が笑顔で生活出来る様に日々努めている。	開設時に独自の理念を作成し、年度初めの新人職員に向けた研修や、定期的な会議で振り返っている。職員と入居者が挨拶を交わし合い、笑顔で過ごせるよう日々のケアに努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍により、地域住民との交流は図れていないが、地域の方が育てている桜の木の前で花見散歩をしたり、近隣の方から花や野菜を頂いたりしている。	行事の芋煮会や夏祭りに、地域に呼びかけて参加してもらったり、地区の祭りに参加していた。自粛を余儀なくされ、いま出来る交流にとどめている。町内会を活用し、回覧板で地区情報を得るなどお願いしたい。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員会や入居者ご家族様が面会にいらした際に、現状報告をしている。また、見学や入居申し込みにいらした方にも施設での取り組みなどを紹介している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会で日々の活動状況や感染症対策について報告しつつ、委員の方々からアドバイスを頂きながらサービスの向上に努めている。	市職員や家族、地域住民代表に、2ヵ月毎にホームの現状等を書面にて送付している。メンバーから感染症対策によるホーム事業の変更などの報告内容があってもよいのではなどの意見があった。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進委員会に参加して頂き取り組みを報告しつつ、アドバイスを頂いている。	更新手続きなどで行政に出向いている。被災した入居者の住所について等、相談し助言を得ている。行政から研修会の案内があったり、虐待予防の研修で場所提供の協力要請があった。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関の施錠をせず、入居者様が外に出る場合は無理に引き留めるようなことはせず一緒に行動をし、見守りをしている。	定期的に身体拘束廃止対策委員会を開催している。事例の動画を使用して、行動の抑制やスピーチロック等の研修を行い、職員自らのケアの振り返りとなった。センサー使用の是非について職員から本人の行動の抑制や安全性について話し合った。		
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者様との関わりの中で、困った事があればその都度、報告・連絡・相談し、会議等の中で話し合う場を設け防止に努めると共に、1人の職員が抱え込む事のないように注意している。また虐待防止の内部研修を行っている。	内部研修では日頃のケアを振り返り、職員間で事例を出し、話し合うことで職員の気づきに繋がっている。職員が一人で抱え込まないようにお互いに声をかけたり、業務を分担する等負担軽減に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修で学ぶ機会は少なく、活用する機会は現状ではない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書を基に説明を行い、その都度同意を得ている。契約内容に変更が生じた場合も書面にて説明し了承を頂いている。その他に、ご家族様より意見を頂いた場合はその都度対応している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や担当者会議にて入居者様の状態を報告し、意見要望を聞いている。また意見・要望があった場合には法人本部とも連携をとり反映するように努めている。	意見、要望受付書を見やすい窓口に置いた。オンライン面会希望があり実現させた。担当者会議では計画書の内容を説明し、通院時の様子などを話している。入居者の様子はその都度教えてほしいなどがあった。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や朝の申し送りにて職員から意見や提案を出してもらい、出来る事から計画・実行をしている。また相談があった場合には時間を設けている。	ケア内容の要望が多く、食事量が低下した入居者の対応で栄養士と相談し、補助食や好きな物を出し摂取しやすい様にした。乾燥機の購入希望などがあり応じている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の給与は職員給与等支給規則に準じ、職員の労働時間は職員就業に準じている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍により外部研修が難しくなっているため、内部研修・勉強会を行うようにしている。またオンライン研修が行えるよう整備している。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員数が少なくネットワークづくりをする機会を設けることが難しく、サービス向上を指せる取り組みは行えていない。	在宅診療医の来訪で、近隣のコロナの感染状況の情報を得た。外部研修に参加して、他事業所の職員と交流があった。法人の居宅や地域包括支援センターから利用希望の情報を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の実態調査や、これまでの関係者から情報提供や、ご家族様に記入して頂いたバックグラウンドアセスメントシートを基に、信頼関係を築くことから少しずつ行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実態調査時から、ご家族様と連絡を密に取り、入居後も面会時や電話等にてこまめに様子を報告し、ご家族様の想いを聞きながら関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に暫定ではあるがケアプランを交付し、1ヶ月内で本プランに移行している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	清掃・家事等、共に行い時間の共有を心掛けている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様・ご家族様・職員間での信頼関係を構築しつつ、共に入居者様を支えていく関係であるよう努めている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様、ご本人様からの情報を基に、馴染みの場所(店や道など)は積極的に利用できるよう、ご家族様に協力して頂いている。	家族対応で馴染みの美容室や自宅近くのスーパーに買い物に行ったり、日和山や渡波、湊地区など馴染みの場所にドライブに行っている。入居してきた同級生とユニットを歩き来し、昔話などで盛り上がっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや行事などで入居者様同士の交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居の際には必要に応じて支援しているが、その後の関わりは今の所みられない。		
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	バックグラウンドアセスメントシートを活用し、普段の会話の中から入居者様一人ひとりの希望・要望などを聞きだし、想いを組み取れるよう努めている。	「私が大切にしていること」の記録と、現状を踏まえて支援をしている。「山に登りたい、家に行きたい、～が食べたい」等に日和山までドライブしたり、家族に連絡を入れるなど本人の思いに寄り添っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の実態調査の内容、またはご本人様の話を基に、ホームでの生活に反映できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	在宅での生活を基盤とし、出来る事に関してはご自身に行って頂くよう努めている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々ケアをしている職員からの情報も担当者会議やユニット会議にて話し合い、プランに反映している。内容に関しては、ご家族様へも説明を行っている他、状態が変化した場合にも、随時見直しを行っている。	ケアマネがケース記録を確認し、担当者から情報を収集し、本人に確認し、3か月に1回モニタリングで評価をする。6か月に1回の全体会議で原案を用いて、家族を交えた担当者会議を行う。変化時は随時見直ししている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	項目毎に記録をつけ、職員間にて情報を共有・話し合いの場として毎日の申し送りの他、会議にて話し合いの場を設けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望のあったものに関しては検討し、ニーズの充足に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの商業施設を利用して買い物などに出掛けている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅から継続している馴染みの医師に依頼している。	診察は専門医も、馴染みのかかりつけ医に家族対応で通院している。状態変化時は職員が付き添い説明をしている。緊急時は協力医の対応である。歯科医は週1回来訪し治療や口腔指導を行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職との協働は行っておらず、入居者様に異変が見られた場合は、主治医や救急搬送となり、ご家族様と相談し、通院などを行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院についてはサマリーを準備し、双方向良好な関係性が保てるよう支援する他、必要時等には電話連絡にて対応している。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期介護に関しては導入しておらず、ご家族様へは、現時点で出来る事・出来ない事をお伝えし、同意を得ながら支援を行っている。	入居時に、看取りケアと医療行為について重要事項説明書に記載している内容を説明し、同意を得ている。主治医の判断に基づき、家族と話し合いを持ち、入院加療か他施設に移動することを勧めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを整備しているが全体として訓練まで行っていないが、外部の救急救命講習に何名かづつにはなるが研修に参加している。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震想定以外の訓練の他、水害や原発防災訓練も実施している。	9月と1月の2回、夜間想定を含む総合、災害種別訓練を実施した。原発防災避難場所として岩沼の特養と提携し、訓練当日は電話で確認した。反省に入居者に「大丈夫」と安心する声がかげがないなどが出た。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つけないよう自己決定と尊厳を大切にし、相手の立場にたった対応を心掛けている。	着替える衣類は本人に決めてもらう。食事時間や居室で過ごすなど本人本位の生活を尊重している。入浴は希望に応じて同性介助とし、おむつ交換等は「お部屋に行きましょう」等声がけの工夫をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話の中から希望・要望などを聞き、出来るだけ想いに添えられるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れを大まかに決めており日々、入居者様の状況に合わせて時間が流れるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の身だしなみに関しても常に気を付け、乱れている場合はさりげなく声掛けをしている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は残存機能に合わせ、調理・配膳と役割があり、協力して実施している。	法人栄養士による献立で、食材は専門業者から取り寄せている。週1回、麺類があり、ノンアルコールや旬の果物が出たり、誕生日には手作りケーキで祝う。敬老会ではホテルの幕の内弁当で盛大に祝った。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が献立を作成しており、バランスは保たれている。食事形態に関してもその方に合わせた形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けにより自立または一部介助にて行って頂いており、口腔ケア物品の清潔にも務めている。また毎日、昼食前に口腔体操を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況を記録し、排泄パターンの把握に努めている。誘導時間ご本人様の状況に合わせ行っている。	ほぼ半数の方が自立で排泄をしている。排泄の有無や排泄時間の把握などに排泄表を活用し、介助歩行や排泄後のケアなど個別ケアに取り組んでいる。夜間帯は、おむつ対応やポータブル使用もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便コントロールが困難な方は糞り付けの医師と相談し下剤を服薬して頂いているが、散歩や腹部マッサージ、水分を多めに摂取して頂き便秘の予防に努めている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	週2回は入浴出来る様、声掛けし対応に努めている。また入浴の気分がのらない場合は無理強いをせず翌日に入ってもらっている。	一日3名の入居者に週2回ゆったりとした入浴支援をしている。1人ずつ浴槽の湯を替え、湯の温度等は要望に応じている。重度の方には足浴をしながらシャワー浴対応で職員2人で支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動的に過ごされている方がほとんどで、夜間帯は良眠されている。状況により日中も休める時間帯を確保し居室で過ごされている時間は、定期的に巡視し、掛物調整や室温にも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬支援チェック表を用いて飲み忘れ防止を図っている。また薬剤の変更があった際にはケース記録と申し送りをし、薬剤表を個人ファイルにとじ、全職員が把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割の定着が難しい入居者様へのアプローチが課題となっている。嗜好品の購入に関しては自ら選んで頂き、可能であれば精算も行っている。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム周辺を散歩したり、馴染みの場所へドライブをしたりとコロナ禍による密をさけながら外出を行っている。またご家族様にも協力して頂き、馴染みの糞り付け医への通院依頼をしている。	入居者の状態を見ながら本人の希望で、昔住んでいた河北町や河南町、日和山などにドライブをした。あやめやサンファンバウティスタ号を見学に行ったり、密を避けての外出もあった。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に金庫で保管管理を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があった場合に電話をお貸したり、本人様が入居時に持参された携帯電話で自由にご家族様と連絡のやりとりをされている。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や時間帯により照明・室温調整をしたり季節感のある装飾を行っている。	両ユニットが南向きで広く明るい。キッチンとリビングは料理をする音や匂いで、家庭的な雰囲気を味わってもらう。モビールの折り鶴や折り紙でコスモスなど季節の花を折り、飾っている。加湿器や空気清浄機を置き、換気に外気を取り込んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間は常に気の合う者同士で過ごせるよう配慮しているが、一人になれる場所がないため、一人になりたい場合には自室で過ごされている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に安心して頂けるよう馴染みの物や使い慣れた物を持参して頂き使用している。	使い慣れた座椅子や筆筒、小物入れなどを持ち込んでいる。居室でテレビを見たり、携帯電話で家族と話したり、位牌に水を供えるなど思い思いの過ごし方をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	管内はバリアフリーで手すりもついている。また、浴室やトイレにも手すりがついている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0490200284		
法人名	社会福祉法人つつじ会		
事業所名	グループホームふれあい ユニット名:平安ユニット		
所在地	宮城県石巻市蛇田字小斎1番地1		
自己評価作成日	令和 3 年 7 月 27 日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 3 年 9 月 24 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様が安心して生活して頂けるような関わりを心掛け、入居者様一人ひとりの思いに寄り添い、充実した生活を送って頂けるような支援を目指したいと考えています。また、新型コロナウイルスにより買い物や、地域住民とのふれあいは難しくなっておりますが、ホーム内でも楽しめる行事や、密を避けながらドライブ、散歩等をしたりと感染症対策に努めながら楽しんで頂けるよう企画しています。尚、出来るだけ在宅から継続している馴染の医師に依頼し健康面のフォローを行って頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して4年目を迎える「グループホームふれあい」は、田や畑に囲まれ住宅が点在する静かな環境にある。開設時からホームの行事には地域に呼びかけ、広い敷地で地域住民を交えて芋煮会や夏祭りなどを行っていたが、コロナ禍により自粛を余儀なくされている。ホームでは、本人の生活歴や現状を踏まえながら、家族と共に入居者を支える支援に取り組んでいる。目標達成計画に掲げた「身体拘束をしないケアの勉強会を単独のものにする」は時間枠を多くとり、職員間で事例に基づいたりチェック表を活用し、身体拘束をしないケアの振り返りとなりケアの改善に繋がった。入居者の思いを引きだす支援に日々努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホームふれあい )「ユニット名 平安 」

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念として「笑顔で寄り添い地域とともに」を掲げており、入居者様が笑顔で生活出来る様に日々努めている。	開設時に独自の理念を作成し、年度初めの新人職員に向けた研修や、定期的な会議で振り返っている。職員と入居者が挨拶を交わし合い、笑顔で過ごせるよう日々のケアに努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍により、地域住民との交流は図れていないが、地域の方が育てている桜の木の前で花見散歩をしたり、近隣の方から花や野菜を頂いたりしている。	行事の芋煮会や夏祭りに、地域に呼びかけて参加してもらったり、地区の祭りに参加していた。自粛を余儀なくされ、いま出来る交流にとどめている。町内会を活用し、回覧板で地区情報を得るなどお願いしたい。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員会や入居者ご家族様が面会にいらした際に、現状報告をしている。また、見学や入居申し込みにいらした方にも施設での取り組みなどを紹介している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会で日々の活動状況や感染症対策について報告しつつ、委員の方々からアドバイスを頂きながらサービスの向上に努めている。	市職員や家族、地域住民代表に、2か月毎にホームの現状等を書面にて送付している。メンバーから感染症対策によるホーム事業の変更などの報告内容があってもよいのではなどの意見があった。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員会に参加して頂き取り組みを報告しつつ、アドバイスを頂いている。	更新手続きなどで行政に出向いている。被災した入居者の住所について等、相談し助言を得ている。行政から研修会の案内があったり、虐待予防の研修で場所提供の協力要請があった。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関の施錠をせず、入居者様が外に出る場合は無理に引き留めるようなことはせず一緒に行動をし、見守りをしている。	定期的に身体拘束廃止対策委員会を開催している。事例の動画を使用して、行動の抑制やスピーチロック等の研修を行い、職員自らのケアの振り返りとなった。センサー使用の是非について職員から本人の行動の抑制や安全性について話し合った。		
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者様との関わりの中で、困った事があればその都度、報告・連絡・相談し、会議等の中で話し合う場を設け防止に努めると共に、1人の職員が抱え込む事のないように注意している。また虐待防止の内部研修を行っている。	内部研修では日頃のケアを振り返り、職員間で事例を出し、話し合うことで職員の気づきに繋がっている。職員が一人で抱え込まないようにお互いに声をかけたり、業務を分担する等負担軽減に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修で学ぶ機会は少なく、活用する機会は現状ではない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書を基に説明を行い、その都度同意を得ている。契約内容に変更が生じた場合も書面にて説明し了承を頂いている。その他に、ご家族様より意見を頂いた場合はその都度対応している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や担当者会議にて入居者様の状態を報告し、意見要望を聞いている。また意見・要望があった場合には法人本部とも連携をとり反映するように努めている。	意見、要望受付書を見やすい窓口に置いた。オンライン面会希望があり実現させた。担当者会議では計画書の内容を説明し、通院時の様子などを話している。入居者の様子はその都度教えてほしいなどがあった。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や朝の申し送りにて職員から意見や提案を出してもらい、出来る事から計画・実行をしている。また相談があった場合には時間を設けている。	ケア内容の要望が多く、食事量が低下した入居者の対応で栄養士と相談し、補助食や好きな物を出し摂取しやすい様にした。乾燥機の購入希望などがあり応じている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の給与は職員給与等支給規則に準じ、職員の労働時間は職員就業に準じている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍により外部研修が難しくなっているため、内部研修・勉強会を行うようにしている。またオンライン研修が行えるよう整備している。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員数が少なくネットワークづくりをする機会を設けることが難しく、サービス向上を指せる取り組みは行っていない。	在宅診療医の来訪で、近隣のコロナの感染状況の情報を得た。外部研修に参加して、他事業所の職員と交流があった。法人の居宅や地域包括支援センターから利用希望の情報を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の実態調査や、これまでの関係者から情報提供や、ご家族様に記入して頂いたバックグラウンドアセスメントシートを基に、信頼関係を築くことから少しずつ行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実態調査時から、ご家族様と連絡を密に取り、入居後も面会時や電話等にてこまめに様子を報告し、ご家族様の想いを聞きながら関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に暫定ではあるがケアプランを交付し、1ヶ月内で本プランに移行している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	清掃・家事等、共に行い時間の共有を心掛けている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様・ご家族様・職員間での信頼関係を構築しつつ、共に入居者様を支えていく関係であるよう努めている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様、ご本人様からの情報を基に、馴染みの場所(店や道など)は積極的に利用できるよう、ご家族様に協力して頂いている。	家族対応で馴染みの美容室や自宅近くのスーパーに買い物に行ったり、日和山や渡波、湊地区など馴染みの場所にドライブに行っている。入居してきた同級生とユニットを歩き来し、昔話などで盛り上がっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや行事などで入居者様同士の交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居の際には必要に応じて支援しているが、その後の関わりは今の所みられない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	バックグラウンドアセスメントシートを活用し、普段の会話の中から入居者様一人ひとりの希望・要望などを聞きだし、想いを組み取れるよう努めている。	「私が大切にしていること」の記録と、現状を踏まえて支援をしている。「山に登りたい、家に行きたい、～が食べたい」等に日和山までドライブしたり、家族に連絡を入れるなど本人の思いに寄り添っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の実態調査の内容、またはご本人様の話を基に、ホームでの生活に反映できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	在宅での生活を基盤とし、出来る事に関してはご自身に行って頂くよう努めている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々ケアをしている職員からの情報も担当者会議やユニット会議にて話し合い、プランに反映している。内容に関しては、ご家族様へも説明を行っている他、状態が変化した場合にも、随時見直しを行っている。	ケアマネがケース記録を確認し、担当者から情報を収集し、本人に確認し、3か月に1回モニタリングで評価をする。6か月に1回の全体会議で原案を用いて、家族を交えた担当者会議を行う。変化時は随時見直ししている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	項目毎に記録をつけ、職員間にて情報を共有・話し合いの場として毎日の申し送りの他、会議にて話し合いの場を設けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望のあったものに関しては検討し、ニーズの充足に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの商業施設を利用して買い物などに出掛けている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅から継続している馴染みの医師に依頼している。	診察は専門医も、馴染みのかかりつけ医に家族対応で通院している。状態変化時は職員が付き添い説明をしている。緊急時は協力医の対応である。歯科医は週1回来訪し治療や口腔指導を行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職との協働は行っておらず、入居者様に異変が見られた場合は、主治医や救急搬送となり、ご家族様と相談し、通院などを行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院についてはサマリーを準備し、双方向良好な関係性が保てるよう支援する他、必要時等には電話連絡にて対応している。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期介護に関しては導入しておらず、ご家族様へは、現時点で出来る事・出来ない事をお伝えし、同意を得ながら支援を行っている。	入居時に、看取りケアと医療行為について重要事項説明書に記載している内容を説明し、同意を得ている。主治医の判断に基づき、家族と話し合いを持ち、入院加療か他施設に移動することを勧めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを整備しているが全体として訓練まで行っていないが、外部の救急救命講習に何名かづつにはなるが研修に参加している。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震想定以外の訓練の他、水害や原発防災訓練も実施している。	9月と1月の2回、夜間想定を含む総合、災害種別訓練を実施した。原発防災避難場所として岩沼の特養と提携し、訓練当日は電話で確認した。反省に入居者に「大丈夫」と安心する声がかげがないなどが出た。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つけないよう自己決定と尊厳を大切にし、相手の立場にたった対応を心掛けている。	着替える衣類は本人に決めてもらう。食事時間や居室で過ごすなど本人本位の生活を尊重している。入浴は希望に応じて同性介助とし、おむつ交換等は「お部屋に行きましょう」等声がけの工夫をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話の中から希望・要望などを聞き、出来るだけ思いに添えられるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れを大まかに決めており日々、入居者様の状況に合わせて時間が流れるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の身だしなみに関しても常に気を付け、乱れている場合はさりげなく声掛けをしている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は残存機能に合わせ、調理・配膳と役割があり、協力して実施している。	法人栄養士による献立で、食材は専門業者から取り寄せている。週1回、麺類があり、ノンアルコールや旬の果物が出たり、誕生日には手作りケーキで祝う。敬老会ではホテルの幕の内弁当で盛大に祝った。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が献立を作成しており、バランスは保たれている。食事形態に関してもその方に合わせた形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けにより自立または一部介助にて行って頂いており、口腔ケア物品の清潔にも務めている。また毎日、昼食前に口腔体操を行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況を記録し、排泄パターンの把握に努めている。誘導時間ご本人様の状況に合わせて行っている。	ほぼ半数の方が自立で排泄をしている。排泄の有無や排泄時間の把握などに排泄表を活用し、介助歩行や排泄後のケアなど個別ケアに取り組んでいる。夜間帯は、おむつ対応やポータブル使用もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便コントロールが困難な方は糞り付けの医師と相談し下剤を服薬して頂いているが、散歩や腹部マッサージ、水分を多めに摂取して頂き便秘の予防に努めている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	週2回は入浴出来る様、声掛けし対応に努めている。また入浴の気分がのらない場合は無理強いをせず翌日に入ってもらっている。	一日3名の入居者に週2回ゆったりとした入浴支援をしている。1人ずつ浴槽の湯を替え、湯の温度等は要望に応じている。重度の方には足浴をしながらシャワー浴対応で職員2人で支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動的に過ごされている方がほとんどで、夜間帯は良眠されている。状況により日中も休める時間帯を確保し居室で過ごされている時間は、定期的に巡視し、掛物調整や室温にも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬支援チェック表を用いて飲み忘れ防止を図っている。また薬剤の変更があった際にはケース記録と申し送りをし、薬剤表を個人ファイルにとじ、全職員が把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割の定着が難しい入居者様へのアプローチが課題となっている。嗜好品の購入に関しては自ら選んで頂き、可能であれば精算も行っている。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム周辺を散歩したり、馴染みの場所へドライブをしたりとコロナ禍による密をさけながら外出を行っている。またご家族様にも協力して頂き、馴染みの糞り付け医への通院依頼をしている。	入居者の状態を見ながら本人の希望で、昔住んでいた河北町や河南町、日和山などにドライブをした。あやめやサンファンバウティスタ号を見学に行ったり、密を避けての外出もあった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に金庫で保管管理を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があった場合に電話をお貸したり、本人様が入居時に持参された携帯電話で自由にご家族様と連絡のやりとりをされている。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や時間帯により照明・室温調整をしたり季節感のある装飾を行っている。	両ユニットが南向きで広く明るい。キッチンとリビングは料理をする音や匂いで、家庭的な雰囲気を味わってもらう。モビールの折り鶴や折り紙でコスモスなど季節の花を折り、飾っている。加湿器や空気清浄機を置き、換気に外気を取り込んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間は常に気の合う者同士で過ごせるよう配慮しているが、一人になれる場所がないため、一人になりたい場合には自室で過ごされている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に安心して頂けるよう馴染みの物や使い慣れた物を持参して頂き使用している。	使い慣れた座椅子や筆筒、小物入れなどを持ち込んでいる。居室でテレビを見たり、携帯電話で家族と話したり、位牌に水を供えるなど思い思いの過ごし方をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	管内はバリアフリーで手すりもついている。また、浴室やトイレにも手すりがついている。		